

「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本改定委員会（第3回）議事要旨

1 日時 令和4年12月27日（火）15時から17時まで

2 場所 福岡市役所15F 1502会議室

3 出席者

張委員長、明石副委員長、吉田委員、永野委員、吉住委員、井原委員
（オブザーバー：井上小学校教育課長）

4 開会

5 議事（委員の主な意見）

トップページについて

- WEB サイトのトップページの分かりやすさは重要である。学習用に、全体が分かりやすくなるメニュー表示や章立てをしておくとともに、ストーリーとして読ませる工夫の両方が必要。
- トップページに戻らないとメニュー（全体）が見られないようにするのではなく、画面の上部や再度に常にメニューを表示させるのが良い。

体験について

- WEB ならではの良さを生かし、「知らない言葉」「音」を体験できるのは良い。一方、WEB 上では体験できないものもあるため、子供たちの体験を促す働きかけもあった方が良い。
- クラスには聴覚過敏の児童もおり、そういった子供たちにどのように聞こえているのかというのも良いかもしれない。
- 体験については、マイナスのイメージ（怖い、大変、危ない）として教えるのではなく、あくまで自分と異なる感覚を体験させるという切り口が良い。
- 障がいというと、体の障がいなど「人」に紐づけられ、目が見えないことや耳が聞こえないことに対処するかという視点であったが、そうではなく、社会側に課題があり、社会側に支援が必要という書き方になると素晴らしい。

福岡にあるユニバーサルデザインを探そうについて

- 福岡市の地図の絵を見て、街の中のユニバーサルデザインを探すというページについても、「福岡市を見よう」から「自分たちの町」を調べて聞いてみようということにつなげてほしい。

- 「歩いてみよう」「見つけてみよう(気づいてみよう)」「やってみよう」と街に飛び出す要素があるとよい。

副読本全体について

- 既存の副読本に掲載している七原則はハード面・障がいにフォーカスが当たっているものである。障がい者に限らず「誰も取り残さない」という視点での整理が必要。
- スクリーンリーダーでの読み上げ対応、視覚障がいのある児童、教師等にとってのアクセシビリティの確保やユーザビリティの向上も必須。WEBサイトより具体化していく中で対応が必要。
- 現行の副読本も良くできており、良いところは堅持していきつつ、社会の成熟により古くなってきた内容を刷新する。具体的には見える障がいにばかりフォーカスするのではなく、高齢者や妊婦や外国人、見えない障がいの人、LGBTQ など多様な状況にいる人たちを盛り込むというアップデートである。
- 知識を得て解決ということではない。対話して考え続けるという投げかけを子供たちにもできたらよい。
- 今年度実施している四コマ漫画のような短くわかりやすく伝えるのも良い。
- 教員向けガイドとして、モデルコースを作るのであれば 20 時間が良いだろう。「このページはどう使うのか」「このイラストはどこに着目するのか」というポイントが分かるようにすること。

デザインについて

- WEBサイトのイメージは、おサルスのロゴイラストを活用したものがよい。スライダーなどで動きをつけつつ、様々なイラストがおサルスの周囲に配置されているもの。
- イラストは手書きを元にデジタル化したものが、動き出しやすく、かわいらしい。アウトラインも引いてあるため、視認性も良い。
- 子どもたちへの体験の促しなどは、キャラクターに語り掛けさせるなどの仕掛けも考えられる。
- ユニバーサルの「サル」にちなんだキャラクターもキャッチーでよいのではないかな。

6 閉会